

「話しは大好きだなんす」



松家 木芳さん (77歳・堀内)

《250》

☆：昭和二十八年、北海道の炭鉱にこつちから十五人、稼ぎさ連れて行きますたつた。☆：当時は労働条件がすごく悪くて、賃金の不払いもあったり、みんなには本当に申す訳がないことをすますた。☆：私の口利きで働きさ行つてもらつたつたため責任を感じて、最後まで頑張つたでも結局賃金を全部もらえなくて、つらい思いをしたがんです。☆：楽しかった思い出は、昭和天皇をまじかに見ることができたことだの、日本初の原子力船「睦」の進水式で美智子妃殿下(当時)がテープカットした場面は、本当に忘れられない出来事。☆：話し好きな私は、読書も大好きで特に歴史物を好んで読んでいますんが、最近では北朝鮮に興味を持ってますた(笑)。

「普代の植物散歩」

フデリンドウ (りんどう科)

大森 竹之助さん (七〇)

久慈市在住



ゆっくり歩いて気をつけないと、見落としてしまうほど小型の花である。だが小さくても青紫色の花の美しさは、くすんだ落ち葉のなかからあたりを圧倒する迫りに満ちている。

日当たりのよい所に生える。フデリンドウの名は花が茎頭に集まって咲き、この姿が筆を思わせることからといわれる。そうかと納得し、名を付けた人の想像力

普代村ではちようど五月下旬あたりに見ることができ。道に沿つた自然に形成された崖のようなどころや、

の豊かさに感心してしまう。秋に咲くミヤマリンドウは植物体も花も大きいけれど、フデリンドウは高さ十センチ以上に伸びることはない。リンドウは秋に咲くものと先入観があり、春咲きのフデリンドウは小さく人目につきにくいこともあり、ついつい見ても気がつかないでしまうかもしれないが、やっと見つけた鮮やかな花の色は頭の中から離れることはないだろう。



フデリンドウ

も青紫色の花の美しさは、くすんだ落ち葉のなかからあたりを圧倒する迫りに満ちている。

フデリンドウの名は花が茎頭に集まって咲き、この姿が筆を思わせることからといわれる。そうかと納得し、名を付けた人の想像力



萩牛地区 (写真：大森さん提供)

川柳 文芸の世界

川柳愛好会 六月例会作品

くつろぎと安らぎくれる花苧蒲、あれこれと問題起こるダム工事、経済がいい方向にいつ変わる

髪型を変えてみようと思つたお茶だけでくつろぐ旧友の顔揃い、移転地の土に馴染んだ八重桜

振り返ることすら出来ず時は過ぎ、初対面胸のときめき押さえてつころもがえ公社通勤颯爽と

人事異動器が変わり硬さとれ、結納の席さくら湯が花を添え、確執の日々なつかしく振り返る

ときめいてばかりよい詩でさかねる、難題を解けばゆっくりくつろげる、変わるがわる私の庭に来る小鳥

嵯峨 待女

三上 翠香

深渡 汀女

太長根英子

加差野静浪

第27回

イーハートブトライアル大会

8月30日(土)

今年もトライアルレースの季節。普代浜での華麗なテクニックをご覧ください。

